

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, ベーシックスキル	2023	1	必修	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ICT スキルⅠ (外国語学科)	前期(半年)	A02100523752A

教員名
江川 明美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	WEBサイト制作、PC・ネットワーク管理の実務経験を活かし、実践的なICTスキルを解説する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

本科目は、ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) の恩恵とリスクを理解した上で、学生生活及び社会生活において適切なデバイスやサービスを選定し活用するための基礎知識を身につける。ICTを活用するための具体的手法を学ぶことで、以後の学習やキャリア形成において求められるICT利活用に関する基礎知識とスキルを修得する。また、情報メディアを主体的に読み解いて必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、評価・識別できる力としてのメディアリテラシーを修得する。合わせてレポート作成等に求められるタイピング、文書作成およびプレゼンテーションソフトウェア使用のための基礎技能を身につける。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

本学入学前に情報処理・パソコン関連の資格を取得している場合は資格名・級がわかる書類 (合格通知のコピー等) を準備すること。また、学習に使用できるパソコンを所有している場合は、OSの種類とOffice (Word、Excel、Power Point) の有無とバージョンを確認しておくこと。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力		1. ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) の恩恵とリスクを理解する。 2. 生活において適切なデバイスやサービスを選定し活用するためのICTに関する基礎知識を身に付ける。 3. タイピングの基礎技能を身につける。 4. 文書作成 (Word) 、表計算機能 (Excel) 、プレゼンテーション (Power Point) ソフトウェアを使用するための基礎技能を身につける。
コミュニケーションスキル		
社会的関係形成力		
多文化理解力		
問題解決力		
自己実現力		

講義等の計画

第1回 テーマ： <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・ICTに関する履修者アンケート ・タイピング ・classroomについて 	
第2回 テーマ： <ul style="list-style-type: none"> ・Windowsの基礎知識 ・ICTスキルとは 	
第3回 テーマ： <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル 電子メールのマナー ・Gmailの活用 	

第4回 テーマ：	・Wordによる文書処理①Wordの基礎知識 ・Wordによる文書処理②文章の印刷とページ設定
第5回 テーマ：	・Wordによる文書処理③表の作成と編集 1 ・Wordによる文書処理④文書の編集2 ・Wordによる文書処理⑤タブ機能とインデント機能
第6回 テーマ：	・表の作成と編集
第7回 テーマ：	・Wordによる文書処理⑥拡張書式設定 ・表現力をアップする
第8回 テーマ：	・長文作成をサポートする ・ビジネス文書の基礎知識
第9回 テーマ：	Word確認テスト
第10回 テーマ：	・Power Pointの基礎知識 ・プレゼンテーションの作成
第11回 テーマ：	・Excelの基礎知識① データの入力・編集 ・Excelの基礎知識② 表の作成 ・Excelの基礎知識③ いろいろな数式
第12回 テーマ：	・Excelの基礎知識④ グラフと図形① ・Excelの基礎知識⑤ データベースの利用
第13回 テーマ：	・グラフと図形 ・データベースの利用
第14回 テーマ：	Excel 確認テスト
第15回 テーマ：	総括 ・期末レポート

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

本科目は、演習形式の科目（週1回開講により半期で1単位）である。授業外学習として指示された演習課題は解答データを作成し指示に応じて提出すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に提出した課題データについては、次回以降の授業時間の演習において修正箇所等を指示する。

この授業に含むアクティブラーニング要素

- 外部機関と連携した課題解決型学習
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他のアクティブラーニング

具体的な内容

この授業で活用する外部試験

- 実施している 実施していない

成績評価基準・方法

提出課題（レポート、Word・Excel・PowerPoint等の演習課題）を80点、授業への参加状況を20点（欠席は4点減点、遅刻は時間に応じて減点）として評価する。3分の1を超える欠席がある場合、単位が認定されないので注意すること。

教科書

[30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応](#) 著者：杉本くみ子 大澤栄子 出版社：実教出版
出版年度： ISBN：978-4-407-3

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

1 [コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門 3級 テキスト&問題集](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・本科目は週1コマ全15回の授業により構成される。一定以上の情報処理スキルを有する場合は習熟度に応じた個別課題を用いる場合がある。
- ・CS検定試験資格取得について、受験を希望する場合は、語学情報センターにて申込みを行う。

戻る

戻る

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ICT スキルⅡ (2023年入学者対象)	後期(半年)	A0720423754Z

教員名
江川 明美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	WEBサイト制作、PC・ネットワーク管理の実務・起業経験を活かし、実務的なシステム（プログラム）作成など教示する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
急速なデジタル化とグローバル化が進展し、社会構造・産業構造が大きく転換しつつある現代社会において、データサイエンスは我々の日常生活のさまざまなシーンで活用されています。そこで利用されているデータの読み解きや説明の仕方などのデータリテラシーについての理解を目指します。そのために授業では出来るだけ多くの事例を取り上げながら、データの可視化について、具体的な事例を通じて理解を深めます。その実習過程においてExcelの利用について学習します。そのため、本講義受講の前提として、いくらかのパソコン操作技術を必要とします。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI・ITの進展によって社会の変革が続いていることについて学習します。 ・ 日常生活や地域社会の中で活用されているAI・IT技術について学習します。 ・ データ・AIを扱う上で留意すべきこと等について学習します。 ・ 簡単なプログラミングを実際に組むことにより、数学的思考およびプログラミング的思考を身に付けます。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会についてどのようにデータ・AIが活用されているかについて理解する。 ・ データの読み解きや説明の仕方などのデータリテラシーについて理解する。 ・ データの利用方法や可視化技術の習得を目指す。 ・ 実際にExcelを操作することにより可視化技術の習得を目指す。
コミュニケーションスキル	2	
社会的関係形成力	2	
多文化理解力	2	
問題解決力	2	
自己実現力	2	

講義等の計画
第1回 テーマ： ・ オリエンテーション ①第1章 地域社会におけるデータ活用 (1-2) ・ 様々な種類のデータ ・ 1次データ・2次データ・メタデータ

<ul style="list-style-type: none"> ・構造化データと非構造化データ（文章・画像/動画、音声/音楽など） 	
<p>第2回 テーマ：</p> <p>②第2章 Excelの基本的な操作方法（データ・AI利活用のための技術）（1-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業用フォルダの作成、Excelファイルの作成と拡張子の表示 ・表の作成、グラフの作成 	
<p>第3回 テーマ：</p> <p>③第3章 時系列データの可視化（データ・AI利活用のための技術）（1-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁のWebサイトからデータのダウンロード ・CSVファイルをExcelブックファイルへ変換 ・データクリーニング、グラフの作成（関係性の可視化、地図上の可視化） 	
<p>第4回 テーマ：</p> <p>④第4章 平均の算出とその可視化（データ・AI利活用のための技術）（1-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データクリーニング ・平均の算出とその可視化 ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化 	
<p>第5回 テーマ：</p> <p>⑤第5章 標準偏差の算出とその可視化（データ・AI利活用のための技術）（1-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準偏差の算出と可視化 ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化 	
<p>第6回 テーマ：</p> <p>⑥第6章 大量のデータを扱う方法（データ・AI利活用のための技術）（1-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁のWebサイトからデータのダウンロード ・データクリーニング・平均、標準偏差の算出 ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化 	
<p>第7回 テーマ：</p> <p>⑦第7章 基本統計量の算出と箱ひげ図（データ・AI利活用のための技術）（1-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化 	
<p>第8回 テーマ：</p> <p>⑧第8章 度数分布表とヒストグラムの作成（データ・AI利活用のための技術）（1-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・奇跡の可視化、リアルタイム可視化など 	
<p>第9回 テーマ：</p> <p>⑨第9章 散布図の作成と相関係数の算出(データ・AI利活用のための技術)(1-5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化 ・挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など 	
<p>第10回 テーマ：</p> <p>⑩第10章 定性データの扱い方とクロス集計(データ・AI利活用のための技術)(1-5)</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など 	
<p>第11回 テーマ:</p> <p>⑪第11章 データリテラシー(データを読む)(2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値) ・観測データに含まれる誤差の扱い 	
<p>第12回 テーマ:</p> <p>⑫第12章 データリテラシー(データを読む)(2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない) 	
<p>第13回 テーマ:</p> <p>⑬第13章 データリテラシー(データを説明する)(2-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) ・データの図表表現(チャート化) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) 	
<p>第14回 テーマ:</p> <p>⑭第14章 データリテラシー(データを扱う)(2-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均) ・データの並び替え、ランキング ・データ解析ツール(スプレッドシート) ・表形式のデータ(csv) ・API連携 	
<p>第15回 テーマ: ⑮総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末テスト 	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

授業終了後、講義内容を復習してください(90分程度)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内に提出した課題データについては、次回以降の授業時間の演習、またはメールにおいて修正箇所等を指示する。

この授業に含むアクティブラーニング要素

	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>	
ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/>	
グループワーク <input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション <input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング <input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

提出課題30% 期末テスト40% その他10%(授業中の質問・回答等の積極的な取り組みを評価します。)
授業への参加状況を20%(欠席は4点減点、遅刻は時間に応じて減点)として評価する。3分の1を超える欠席がある場合、単位が認定されないので注意すること。

教科書

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・ 授業への出席が全体の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験を認めません。
- ・ 授業後の復習は必要です(90分)。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ICT スキルⅡ B	後期(半年)	A0720423021A

教員名
江川 明美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	WEBサイト制作、PC・ネットワーク管理の実務・起業経験を活かし、実務的なシステム（プログラム）作成など教示する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

高度情報化が進む現代社会においてICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の利活用は必要不可欠である。特に、コンピュータを用いた表計算処理は、あらゆる分野において必要とされるスキルの一つといえる。そこで本科目では、「ICTスキルⅡB」で学んだ表計算スキルの定着と発展を目的とし、表計算ソフトウェア（Excel）における応用的操作技術としてコンピュータサービス技能評価試験（略称：CS検定）表計算部門2級相当レベルの修得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

「ICTスキルⅠA」、「ICTスキルⅠB」、「ICTスキルⅡA」の単位修得、CS検定ワープロ部門2級部門合格を履修条件とする。

学習上の到達目標 達成評価指標		レベル	授業の到達目標
知識・技術力	2	1. 表計算ソフトウェアの応用的操作技術を習得する。 2. コンピュータサービス技能評価試験（略称：CS検定）表計算部門2級レベルに相当する技術を習得する。	
コミュニケーションスキル	2		
社会的関係形成力	2		
多文化理解力	2		
問題解決力	2		
自己実現力	2		

講義等の計画
第1回 テーマ： 履修者アンケート、CS検定表計算3級レベルの復習1
第2回 テーマ： CS検定表計算3級レベルの復習2、書式設定、条件付き書式
第3回 テーマ：CS検定表計算2級模擬問題 課題1 装飾・編集 z
第4回 テーマ：関数1（IF関数のネスト他）

第5回 テーマ： 関数2 (COUNTIF、SUMIF関数他)	
第6回 テーマ： 関数3 (MATCH関数、INDEX関数他)	
第7回 テーマ： 関数4 (VLOOKUP、HLOOKUP関数他)	
第8回 テーマ： CS検定表計算2級模擬問題 課題2 関数式による表の完成	
第9回 テーマ： グラフ作成1 (折れ線と棒の複合グラフ、3D棒グラフ)	
第10回 テーマ： グラフ作成2 (散布図、レーダーチャート)	
第11回 テーマ： CS検定表計算2級模擬問題 課題4 グラフ作成	
第12回 テーマ： データベース機能 (並べ替え、フィルター)	
第13回 テーマ： データベース機能 (抽出、集計)	
第14回 テーマ： CS検定表計算2級模擬問題 課題3 データ処理	
第15回 テーマ： CS検定表計算2級模擬問題 課題1~4	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的な内容

演習形式の場合、1回の授業（90分の授業時間を単位計算上2時間とみなす）に対して1時間の授業外学修を必要とする。事前学修にて、シラバスを参照し使用するソフトの操作方法や知識について確認すること。事後学習は、指示された演習課題と復習を主とし、指示に応じて作成データを提出すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に提出した課題データについては、次回以降の授業時間の演習において個別に修正箇所等を指示する。

この授業に含むアクティブラーニング要素

	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>	
ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/>	
グループワーク <input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション <input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング <input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

授業への参加状況（取り組み態度や遅刻・欠席の状況）を20点、提出課題及び試験を80点として評価する。試験として、CS検定表計算部門2級の模擬問題またはCS検定を実施する。3分の1を超える欠席がある場合、受験資格喪失として単位が認定されないので注意すること。

教科書

30時間アカデミック Office2016 Windows 10対応

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

1 [コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門2級 テキスト&問題集](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

・本科目は、2年（後期）以上、4月入学留学生は3年（後期）以上、10月入学留学生は3年（前期）を対象とし、CS検定ワープロ部門2級合格を履修条件とします。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	1
経済政策学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	1
社会福祉学科	基盤教育科目, キャリア形成科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ICT スキルⅢ	前期(半年)	A0730523022Z

教員名
西村 文男

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	ICT機器（コンピュータ、スマートデバイス、タブレットなど）を利用した情報発信能力の習得を目的として、「Power Point」を主体として用いたプレゼンテーションコンテンツの作成を学習する。合わせて、メディアコンテンツの作成・編集を演習し、専門科目および専門演習などに活用できるスキルを習得させる。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

ICT機器（コンピュータ、スマートデバイス、タブレットなど）を利用した情報発信能力の習得を目的として、「Power Point」を主体として用いたプレゼンテーションコンテンツの作成を学習する。合わせて、メディアコンテンツの作成・編集を演習し、専門科目および専門演習などに活用できるスキルを習得させる。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

PowerPointの基礎操作はある程度必要となりますが、履修に必要な知識・技能の制限は特にありません。様々な場面で必要になるプレゼンテーションについての興味や探究心は必要になります。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	3	「Power Point」を用いて、様々なメディアコンテンツを活用した伝わるプレゼンテーション作成を習得する。
コミュニケーションスキル	3	
社会的関係形成力	3	
多文化理解力	3	
問題解決力	3	
自己実現力	3	

講義等の計画

第1回 テーマ：履修者アンケート、ICT機器の使用状況確認	
第2回 テーマ：プレゼンテーションの基本	
第3回 テーマ：自己紹介プレゼンの演習	

第4回 テーマ： 自己紹介プレゼンの評価と研究	
第5回 テーマ： プレゼンテーションの技術	
第6回 テーマ： スライド作成：背景・目的のスライド	
第7回 テーマ： スライド作成：方法説明のスライド	
第8回 テーマ： スライド作成：結果のスライド	
第9回 テーマ： スライド作成：まとめのスライド	
第10回 テーマ： スライド作成：その他のスライド	
第11回 テーマ： スライド作成：デザイン、内容、しゃべり方	
第12回 テーマ： PowerPointによるプレゼンテーションの評価（1）	
第13回 テーマ： PowerPointによるプレゼンテーションの評価（2）	
第14回 テーマ： PowerPointによるプレゼンテーションの評価（3）	
第15回 テーマ： 成果物のとりまとめ	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的な内容

授業外での学習時間は設定しておりませんが、授業内で発表するプレゼンテーション作成を課題として設定いたしますので、それぞれのスキルにあわせての授業外学習時間が必要になります。その点は考慮ください。
なお、情報共有や課題提出などで、Googleアカウントを利用します。事前に自分の大学Googleアカウントへログイン可能な状態を準備して履修をお願いいたします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習		具体的な内容
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>	
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

課題、成果物提出の内容等にて評価します。テストはありません。

教科書

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称
宮野公樹 「学生・研究者のための 使える!PowerPointスライドデザイン 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術」 化学同人

履修上の注意事項や学習上の助言

指定の教科書はありません。必要に応じてプリント等を配布します。
また、参考書や参考文献に関しては、講義の際、適宜紹介します。

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	1	必修	1
経済政策学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	1	必修	1
社会福祉学科	基盤教育科目, 教養科目	2023	1	必修	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
ウェルビーイング	前期(半年)	A03101523702Z

教員名
中野 伸彦

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	第2回から第8回にかけての7回分の授業について、学外の各分野の専門家をゲストスピーカーとして招き講義を行う。詳しくは下記「講義等の計画を参照。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

国連がWHO憲章に掲げている「Well-Being」の定義は「単に疾病または病弱の存在しないことではなく、人種、宗教、政治的または経済的もしくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである」として「完全な肉体的、精神的および社会的福祉の状態」をさしている。世界中のすべての人々がこの状態を享受するためには世界の平和と安全が確保されなければならないので、実現のためには個人や国家による様々な努力や協力が不可欠となる。その意味ではSDGsの目標とも深く関わる概念といえる。この目標をあらためて個人レベルでみていくと「人がよくあろうとすること、よりよく生きること、生きつづけようとする」ということが起点になる。この想いが個人を超えて家族や地域、企業や組織、さらには国境や人類にまで拡張され共有されるならば、個人の「よくあろうとする」この想いは、よりよい地域づくりやまちづくり、環境づくりに向けた指標と合致していくことになる。

そこで、本講義では、普段から「よりよく生きよう」とされている人々、あるいはSociety5.0やDX時代を見据えた経営者など、様々な分野で「いきいきと生きておられる」地域の活動家や実践者に来学いただき、ゲストスピーカーとしてご自身の生き方や活動内容を語って頂くことを通して、学生自身のレジリエンス(復元力や回復力や対応力など)やエンプロイアビリティ意識の向上などをはかり、今後の学習目標の絞り込みに役立てる。また大学においても、こうした活動家や実践者との学内外を通じた協働プロジェクトを組織化したり、プラットフォーム的な連携づくりの可能性なども模索していきたい。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力		1. 人がよくあろうとする、よりよく生き続けようとするときの行動指針を学ぶ。 2. 地域の活動家や実践者の生き方を通して、自らの行動指針やレジリエンスを養う。 3. 「ウェルビーイング」を目標に据えた事業経営や地域づくりの実践課題を見出す。
コミュニケーションスキル		
社会的関係形成力		
多文化理解力		
問題解決力		
自己実現力		

講義等の計画

第1回 テーマ： オリエンテーション ((6月9日) 中野、平田、管	キーワード：「ウェルビーイング」を学ぶ意義と目的)
第2回 テーマ： 盲ろうの世界を知る(6月16日) 古川幸枝 氏	キーワード：ノーマライゼーションとは
第3回 テーマ： SDGs 竹から地域活性化(6月23日) 豊田奈々子 氏	キーワード：学生発から企業
第4回 テーマ： L G B Tと多様性(6月30日) 儀間由里香 氏	キーワード：人権尊重の社会づくり
第5回 テーマ： ゲームが世界を変える(7月14日) 小池勇琉 氏	キーワード：その魅力と未来
第6回 テーマ： ちゃんぽんと街づくり(7月7日) 陳優氏 氏	
第7回 テーマ： 無人島キャンプ作家の挑戦(7月21日) 田原拓朗 氏	
第8回 テーマ： 動物愛護活動発・共助のまちへ (※補講期間7月28日) 瀧信彦 氏	キーワード：殺処分ゼロをめざして

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習：予想される講義内容について、関連文献やインターネット等を活用し事前学習を行っておく
復習：講義で使われた専門用語を辞書等で調べ、講義ノートに記載する

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

--

この授業に含むアクティブラーニング要素

	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>	
ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/>	
グループワーク <input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション <input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング <input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

--

成績評価基準・方法

- ・各回終了時に振り返りレポートを提出する（20%）
- ・全講座終了時に総括レポートを提出・評価する（80%）

教科書

--

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

教科書特になし。必要に応じ関連資料等を配布する。

毎回、振り返りのための小レポートや課題等を提出することで出席の確認と成績評価を行うので、受講生はレポート等が未提出にならないように十分注意すること。最終の総括レポートのために、各回の講義内容は、欠かさずノートにまとめておくこと。

※再履修者と一部留学生向けにオンデマンド録画配信を行う予定です。

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門科目, 展開科目	2011, 2012, 2013, 2014	2	選択	2
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2010, 2011, 2012, 2013, 2014	2	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022	2	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
臨床心理学	後期(半年)	A03202623117Z

教員名
開 浩一

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	相談援助、コミュニケーション研修、インタビュー調査を実施してきた活動経験を活かし、心理療法の実践を紹介する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

臨床心理学とは、不適応や、障がい、苦悩が成り立つ状況を研究するとともに、人が抱える問題を予測し、軽減し、解消することを目指す学問である。この授業では、臨床心理学について、構造と歴史、基本理念、アセスメントなどの基本的な知識について講義を行う。また、ロールプレイを行って面接法や心理療法について体験する。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

「心理学と心理的支援」を履修済みであることが望ましい。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	2	知識技術力 臨床心理学の観点から、人の心や行動を理解できる。
コミュニケーションスキル	2	コミュニケーションスキル 傾聴のロールプレイを通して、相手の話にも耳を傾け共感できる。
社会的関係形成力	2	社会的関係形成力 他者を尊重した関係をつくることに役立てられる。
多文化理解力	2	多文化理解力 自分とは異なる文化的背景をもつ人の理解に役立てられる。
問題解決力	2	問題解決力 自分や相手の抱える心理的問題を未然に防いだり、問題を解決するために応用できる。
自己実現力	2	自己実現力 他者評価に依存しすぎることなく、自己肯定感を自分で育めるようになる。

講義等の計画

第1回 テーマ： 臨床心理学とは（科学者—実践者モデル、エビデンスベーストアプローチ、アセスメント、ケースフォーミュレーション、生物—心理—社会モデル）	
第2回 テーマ： 臨床心理学の成り立ち（欧米と日本における歴史、公認心理師の	

業務)	
第3回 テーマ： 心理アセスメント（観察法、質問紙法、パーソナリティ検査、不安検査、うつ検査など）	
第4回 テーマ： 心理アセスメント（投映法、知能検査）	
第5回 テーマ： 心理アセスメント（作業検査法・知能検査・乳幼児精神発達検査・高齢者向け検査・神経心理的検査）	
第6回 テーマ： 精神疾患とその治療（DSM-V、知的発達症、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症、統合失調症スペクトラム障害、抑うつ障害群、双極性障害群、不安症群、強迫症、パーソナリティ障害群）	
第7回 テーマ： 精神疾患とその治療（心的外傷及びストレス因関連障害群、解離症群、身体症状症、燃え尽き症候群、摂食障害群、睡眠-覚醒症候群、物質関連障害、神経認知障害群、てんかん）	
第8回 テーマ： 心理療法のモデル（精神力動的アプローチ）	
第9回 テーマ： 心理療法のモデル（行動主義・行動療法）	
第10回 テーマ： 心理療法のモデル（人間性アプローチ・クライアント中心療法）	
第11回 テーマ： 心理療法のモデル（認知モデル・認知行動療法）	
第12回 テーマ： 心理療法のモデル（人間関係のなかで心をとらえるシステム論、家族療法）	
第13回 テーマ： 心理療法のモデル（コミュニティ心理学、社会構成主義、ナラティブアプローチ）	
第14回 テーマ： 相手の話を聞く技術（公認心理師の業務など）	
第15回 テーマ： 臨床心理学まとめ	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習： 関係する書籍・文献を読む	20時間
復習： 授業中に配布した資料や紹介した文献を読む	40時間

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Googleクラスルームにレポートのフィードバックを送ります。

この授業に含むアクティブラーニング要素

	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
その他のアクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/>

ロールプレイを通して面接法や心理療法を体験的に学習します。

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

授業への参加状況、取り組み態度40%
レポート60%

教科書

資料を配布または配信します

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

下山晴彦「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房

下山晴彦他. 2020. 「公認心理師スタンダードテキストシリーズ3 臨床心理学概論」ミネルヴァ書房

履修上の注意事項や学習上の助言

ロールプレイやグループワーク等を用いた体験型の授業を実施します。積極的に相手とコミュニケーションをとる姿勢が求められます。

戻る

戻る

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2010, 2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	1
社会福祉学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	1

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
介護技術演習 a (水4限)	前期(半年)	A03304023044A

教員名
田川 美由紀

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	看護師としての実務経験また現在運営しているデイサービスでの実例を取り上げ、介護技術の実際を受講者がイメージできる演習を心がけながら理論や原理を解説する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

「ソーシャルワーカーは、同じ福祉の理念や価値を基盤とするケアワーク（介護福祉士業務）、すなわち介護について理解することによってこそ、要介護状態の利用者理解や、利用者の介護ニーズを基にした介護サービス計画作成、介護問題を抱えた家族支援等が可能となる」とある。また、「求められる介護福祉士像」では、①尊厳を支えるケアの実践 ②自立支援を重視した介護ニーズの対応 ③個別ケアの実践 ④一人でも基本的な対応ができる ⑤予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる ⑥利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力等の実践能力が求められる。本授業では、その人が自立した生活を営み、自己実現が図れるよう支援するために、エビデンス（科学的根拠）に基づいた介護技術の習得をめざし演習を行う。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

介護概論、高齢者及び障害者の生活支援、コミュニケーション技術、医学一般など

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	1. エビデンス（科学的根拠）に基づいた介護技術を習得する。 2. 利用者の心身の状況（生活面・心理面・社会面・身体面）に応じた介護技術を理解する。
知識・技術力	3	
コミュニケーションスキル	3	
社会的関係形成力	2	
多文化理解力	2	
問題解決力 自己実現力	2 2	

講義等の計画	
第1回 テーマ： 1. 科目の目的 2. 介護技術における基礎知識 3. 移動・移乗の介護	キーワード：介護 基礎知識 課題：専門用語 ポディメカニクス 参考資料：DVD
第2回 テーマ： 1. 安全管理 感染防止	キーワード：KYT 事故防止 標準予防対策
第3回 テーマ： 1. コミュニケーション 2. 記録・報連相	キーワード：傾聴 共感 アサーティブネス

第4回 テーマ： 1. ボディメカニクス 2. ベッドメイキング	キーワード：原理 体感
第5回 テーマ： 1. バイタルサイン	キーワード：体温・血圧・呼吸・脈拍・SpO2
第6回 テーマ： 1. 体位変換の介助 2. 移乗	キーワード：ボディメカニクス 車椅子 杖 麻痺 参考資料：DVD
第7回 テーマ： 1. 移動介助（トランスファー）	キーワード：嚥下のメカニズム 食事介助 参考資料：DVD
第8回 テーマ： 1. 嚥下のメカニズム 2. 食事介助	キーワード：嚥下のメカニズム
第9回 テーマ： 1. 清潔介助	キーワード：保温・不感蒸泄
第10回 テーマ： 1. 更衣介助	キーワード：麻痺のある人の介助 参考資料：DVD
第11回 テーマ： 利用者の心身の状況の理解とその人にあった技術 ①	キーワード：アセスメント 事例検討 課題：利用者のアセスメント
第12回 テーマ： 利用者の心身の状況の理解とその人にあった技術 ②	キーワード：その人にあった技術 課題：方法の練習
第13回 テーマ： 利用者の心身の状況の理解とその人にあった技術 ③ 技術試験	キーワード：その人にあった技術 技術試験 講評
第14回 テーマ：	
第15回 テーマ：	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習：事例に関して、既習科目を想起しその人の理解ができるようまた、ディスカッションができるように準備しておく。
復習：事例の人をイメージしながら自己練習を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に対して、演習やディスカッションを実施の際にフィードバックする。
技術試験に対して、試験終了後に講評を行う。

この授業に含むアクティブラーニング要素

外部機関と連携した課題解決型学習	□	具体的な内容
ディスカッション、ディベート	☑	自己学習を行った課題に対して、グループワーク及びディスカッションを行う。更にグループでまとめたものをプレゼンする。
グループワーク	☑	
プレゼンテーション	☑	
実習、フィールドワーク	☑	
その他のアクティブラーニング	□	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

技術試験40点 技術習得への取り組み、課題提出30点 筆記試験30点

教科書

介護福祉士 実務者研修テキスト 第2巻 介護Ⅰ

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

総括として技術試験を実施します。

[戻る](#)

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科基礎科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
発達と老化	後期(半年)	A03304123045Z

教員名
黒田 美穂

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	救急（小児）から在宅、及び高齢者施設での介護・看護の経験、障害児・発達障害児の医療援助の経験を活かし、人の発達の経過や老人の特性、終末期ケアなどの基本的な知識と老化に関する観察など実践的な教育を行う。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

社会的に重要性が高まっている高齢者や認知症、障害について基礎的な理解を深め、これからの介護ニーズに対応できる能力の修得を目的とする。（人間の発達と老化、認知症の理解、障害の理解について）

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

高齢者福祉論、障害者福祉論などの科目を履修しておくことが望ましい

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	3	1) 発達と老化、認知症及び障害に関する「人」についての基礎的な知識を修得する。 2) 高齢者や障害者などに多くみられる病気や機能低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。
コミュニケーションスキル	3	
社会的関係形成力	2	
多文化理解力	2	
問題解決力	2	
自己実現力	2	

講義等の計画

第1回 テーマ：オリエンテーション、発達と老化（1）	
第2回 テーマ：発達と老化（2）	
第3回 テーマ：発達と老化（3）	
第4回 テーマ：発達と老化（4）	
第5回 テーマ：認知症の理解（1）	
第6回 テーマ：認知症の理解（2）	
第7回 テーマ：認知症の理解（3）	
第8回 テーマ：認知症の理解（4）	
第9回 テーマ：認知症の理解（5）	
第10回 テーマ：障害の理解（1）	

第11回 テーマ： 障害の理解 (2)	
第12回 テーマ： 障害の理解 (3)	
第13回 テーマ： 障害の理解 (4)	
第14回 テーマ： 障害の理解 (5)	
第15回 テーマ： 障害の理解 (6)	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的な内容

基本的には事前学習は不要ですが、授業の振り返り（自宅での復習）は毎回行って頂きたいと思っています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この授業に含むアクティブラーニング要素

	□	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	2022度も新型コロナウイルス感染予防のため講義形式の講義を行っていきます。（感染の状況次第ではGoogleクラスルームを用いた講義に切り替えます。）
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>	
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

授業への参加態度及びレポート、筆記試験などにより総合的に判断します。筆記試験は記述式とし、試験範囲は原則事前に発表します。

教科書

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

履修上の注意事項や学習上の助言

- ・履修時、風邪症状及び発熱など体調不良がある方の出席は基本的にはご遠慮下さい。（事務所とご相談下さい。）
- ・履修時は必ずマスク着用し、私語は謹んで下さい。
- ・基本的には対面授業を行いますが、感染状況で、Googleクラスルームを使つての授業となります（ご了承下さい。）
- ・社会福祉士、精神福祉士資格取得レベルのための基本的な講義を行いますが、介護の教員を目指す方・介護福祉士を目指す方、「医療」に興味がある方も履修歓迎です。
- ・質問に関してはGoogleクラスルームのコメントにて随時受けつけ、随時、返信を行います。（遅くなる場合もありますので、ご了承下さい。）

戻る

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門科目, 関連科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
外国語学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	2
経済政策学科	専門科目, 関連科目	2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	2
社会福祉学科	専門科目, 展開科目	2010, 2011, 2012, 2013, 2014	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
教育相談・カウンセリング [※] (教職)	後期(集中)	B08308623507Z, E07305723507Z, E5130523507Z, F12310323507Z, F5130823507Z

教員名
内野 成美

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	教育現場における不登校・いじめなどに関して学校の取組みの現状、スクールカウンセラーの関与の実際を紹介する。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要
本講義では、学校で教師が教育相談をおこなうにあたって有しておくべき知識を身に着ける。まず、いろいろな相談場面での教師の役割・ありかたについて説明し、つづいて教育相談に関連する心理学（カウンセリング）の知識を伝える。これにより、知識・技術力および多文化理解力を高める。講義中、学問的な情報の伝達に加え、ロールプレイやグループ・ディスカッションなどの体験的な活動も組み込み、コミュニケーションスキルや問題解決力を養う。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能
教職課程履修者は同時期に開講される「生徒・進路指導論」を受講しなければならない。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	3	1 専門知識に基づいて生徒の気持ちを理解しようとする教師になること。 2 学校内でのチームワークを重視する教師になること。 3 保護者と良好な関係をもち、アドバイスができる教師になること。
コミュニケーションスキル	3	
社会的関係形成力	3	
多文化理解力	3	
問題解決力	3	
自己実現力	3	

講義等の計画
第1回 テーマ：オリエンテーション
第2回 テーマ：教育機関としての学校、組織としての学校
第3回 テーマ：担任教諭の役割

第4回 テーマ： 生徒指導	
第5回 テーマ： 教育相談・1： 生徒の心の理解	
第6回 テーマ： 教育相談・2： 生徒の心の病気の理解	
第7回 テーマ： 教育相談・3： 生徒と教師の関係	
第8回 テーマ： 教育相談・4： 保護者と教師の関係	
第9回 テーマ： 教育相談・5： 教師同士の関係、管理職者との関係	
第10回 テーマ： カウンセリング・1： クライアント中心療法	
第11回 テーマ： カウンセリング・2： 行動療法と認知行動療法	
第12回 テーマ： カウンセリング・3： 精神分析療法と箱庭療法	
第13回 テーマ： カウンセリング・4： いじめ問題へのカウンセリング	
第14回 テーマ： カウンセリング・5： 発達障害を有する生徒へのカウンセリング	
第15回 テーマ： カウンセリング・6： 不登校生徒へのカウンセリング	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

予習： 関係する書籍・論文を読む	20時間
復習： 授業中に配布した資料や紹介した文献を読む	40時間

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

--

この授業に含むアクティブラーニング要素

	具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習 <input type="checkbox"/>	
ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/>	
グループワーク <input type="checkbox"/>	
プレゼンテーション <input type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング <input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

用いない。毎回、プリントを配布し、そのプリントに沿って講義をおこなう。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

『学習指導要領』

他の参考書については、講義内容に応じ、その都度紹介する。

履修上の注意事項や学習上の助言

教職課程履修者の場合、本講義は「必修科目」である。

[戻る](#)

[戻る](#)

学科	科目区分	対象入学年度	標準履修年次	単位種別	単位
外国語学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	2
経済政策学科	専門教育科目, 地域政策コース	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	2
社会福祉学科	専門教育科目, 学科関連科目	2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021	3	選択	2

授業科目名	開講時期	授業科目ナンバー
生涯学習・社会教育論 (教職)	前期(半年)	B08308723506Z, E07305823506Z, E2130123506Z, F12310223506Z, F5130723506Z

教員名

菅原 良子

実務経験のある教員による授業科目	実務経験に基づいた教授内容・方法
○	環境学習をテーマに講師を務めている方に来ていただき、実際に地域でおこなわれている講座と同じように自然物を教材とした出前講座をしていただき、社会教育での学びを体験する。また、日程の都合が合えば行政の社会教育担当者に、行政の社会教育の取り組みについて講義していただく予定である。

教職課程上の科目区分	免許種別の科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	教職課程上の必修/選択

授業の概要

本科目は、社会福祉学科・外国語学科・経済政策学科の専門教育科目であると同時に、教職に関する科目の「教育の基礎的理解に関する科目等」における「教育の基礎的理解に関する科目」の「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に位置づく教職課程科目である

社会教育とは学校教育以外の領域で組織される多様な教育・学習活動を指し、その特色は地域を基盤として自主的な学習として展開されるところにある。日本では1980年代に生涯学習政策が導入されて以降、社会教育と学校教育の在り方が大きく変わってきている。本授業では、社会教育とは何か、生涯学習とは何か、社会教育・生涯学習の歴史と理念などの生涯学習と社会教育に関する基本的な事項について学ぶとともに、社会教育と学校教育の対比や連携、社会教育と生涯学習との違い、学習の必要性と多様な学習のあり方などについての理解を深めていく。講義だけでなくグループワークもとりいれながら 授業を進めていく。

履修しておくことが望まれる科目または履修に必要な予備知識・技能

日ごろから地域で行われている教育について興味・関心を持ち、生涯学習と社会教育について自分なりに調べておくこと。

学習上の到達目標		授業の到達目標
達成評価指標	レベル	
知識・技術力	3	1. 生涯学習とは何か、社会教育とは何か、生涯学習・社会教育の必要性や多様な学びの内容・方法について、自分なりに理解し、説明することができる (知識・技術力)
コミュニケーションスキル		
社会的関係形成力	2	2. グループワークの中で、自分の考えを述べ、他者の意見にも耳を傾けながら、協力してワークを進めることができる (社会的関係形成力)
多文化理解力	2	
問題解決力	3	3. 自分とは異なる意見や価値観。文化について理解しようと努めるとともに、様々な事象について多角的な視点から捉えることができる (多文化理解力)
自己実現力		
		4. 地域や教育・学習に関わる様々な問題の事象や背景について多角的な視点から捉え分析するとともに、具体的な解決策を複数提示することができる (問題解決力)

講義等の計画

第1回 テーマ： 授業の目的と概要、到達目標や評価方法の説明 社会教育・生涯学習の概念	キーワード： 教育、生涯学習、学校教育、家庭教育、社会教育、地域 課題： シラバスを読んでくること 参考資料： シラバス
第2回 テーマ： 生涯学習・社会教育のイメージ1 社会教育と生涯学習	キーワード： 生涯学習、学校教育、家庭教育、社会教育 課題： 生涯学習とは何か
第3回 テーマ： 生涯学習と社会教育のイメージ2 学習とは何か	キーワード： 生活と学習、学校・家庭・社会・地域
第4回 テーマ： 生涯学習と社会教育のイメージ3 学習の必要性	キーワード： 教育、学習、知識、経験、人間の発達 課題： 生涯学習と社会教育の違いについて
第5回 テーマ： 社会教育の歴史と理念① 戦前・戦中期	キーワード： 通俗教育、成人教育、教化、青年団 課題： アメリカの占領政策
第6回 テーマ： 社会教育の歴史と理念② 1945年～1960年代	キーワード： 民主主義、自己教育
第7回 テーマ： 社会教育・生涯学習をめぐる国際的な動向	キーワード： ユネスコ、P. ラングラン、E. ジェルピ、学習の4つの柱 課題： 4つの柱
第8回 テーマ： 生涯学習論の登場と社会教育の歴史と理念 1960年代～現在	キーワード： 公民館、権利としての社会教育、社会教育と生涯学習 課題： 4つのテーゼ
第9回 テーマ： 学習権宣言の意義と内容	キーワード： ユネスコ、学習権宣言 課題： 学習権宣言の意義
第10回 テーマ： 生涯学習・社会教育の法と制度	キーワード： 社会教育法、図書館法、博物館法、生涯学習振興法 課題： ：社会教育法・図書館法・博物館法・生涯学習振興法
第11回 テーマ： 生涯学習・社会教育の施設	キーワード： 公民館、図書館、博物館 課題： 生涯学習・社会教育に関する施設を一つとりあげ調べてくる
第12回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び① 学習形態と方法	キーワード： 学習の概念、学習のモデル、学習活動の構成者
第13回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び② 地域課題の解決方法	キーワード： 地域課題
第14回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び③ 地域での実際の取り組み	キーワード： 学習活動
第15回 テーマ： 生涯学習・社会教育における学び④ 地域でおこなわれている学習活動・学びの多様性	キーワード： 生活と学習、学校、家庭、社会・地域、コミュニティの再生
第16回 テーマ：	

授業時間外の学修の目安と事前・事後学修の具体的内容

日ごろから学習の意味について考えるとともに、毎回の授業後にプリント・ノートを見返し、疑問点などを調べたり質問したりするなどの復習を行うこと。授業中に提示された課題にとりくむこと。

また、参考文献を最低1冊は読むとともに、実際に自分が住んでいる地域にある生涯学習・社会教育施設を一度は訪ねること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の課題及び最終レポートについては、以下の方法のいずれかにおいてフィードバックを行う。①授業中の解説、②授業中もしくはメールやgoogle classroomなどの採点欄による添削結果の返却。

この授業に含むアクティブラーニング要素

		具体的な内容
外部機関と連携した課題解決型学習	<input type="checkbox"/>	課題テーマについて、グループワークやディスカッション及びその結果や事前学習内容に関するプレゼンテーション
ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/>	
グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/>	
プレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/>	
実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	
その他のアクティブラーニング	<input type="checkbox"/>	

この授業で活用する外部試験

実施している 実施していない

成績評価基準・方法

毎回の講義で提出してもらう授業レポートと授業への参加態度（30%）、講義中や講義最終時の課題（レポートあるいは試験）（70%）により評価する。原則として出席が出席すべき講義回数の3分の2を満たしていない場合は評価の対象としない。欠席・遅刻は減点対象とする。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布。

参考書・参考文献・参考URL

参考書・参考文献 名称

- 1 [片野親義『社会教育における出会いと学び』（ひとなる書房、2002年ひとなる書房）](#)
- 2 [片野親義『学びの原風景をさがし求めて』（国土社、2005年）](#)
- 3 [佐藤一子『地域学習の創造：地域再生への学びを拓く』（東京大学出版会、2015年）](#)
- 4 [大串隆吉『社会教育入門』（有信堂、2008年）](#)
- 5 [国生寿・吉富啓一郎『社会教育と現代的課題の学習』（あいり出版、2006年）](#)
- 6 [千野陽一（監修）、社会教育推進全国協議会（編集）『現代日本の社会教育〈増補版〉—社会教育運動の展開』（エイデル研究所、2015年）](#)
- 7 [寺中作雄『社会教育法解説 公民館の建設』（国土社、1995年）](#)
- 8 [社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』第8版（エイデル研究所、2011年）](#)
- 9 [全国公民館連合会（著）『新訂 よくわかる公民館のしごと』（第一法規株式会社、2017年）](#)
- 10 [浅井 経子ほか『生涯学習支援の道具箱』（社会通信教育協会、2019年）](#)

履修上の注意事項や学習上の助言

・授業ではゲストティーチャーの方にいらしていただく場合もある。授業の計画については、授業の進行状況や履修者のテーマへの興味関心などにより、計画通り進まないこともある。毎回の授業終了後に講義レポートを提出すること。本授業は教職科目でもあるため、自覚的・主体的な態度を求める。グループワークも行うので積極的な参加を望む。

・学外での活動なども授業中に紹介するので、積極的に参加すること。

・本授業は新型コロナウイルス感染症の拡大などにより、授業の方法や内容などが変更される場合がある。その場合の詳細については、その都度授業やgoogle classroomなどで説明するので留意すること。

[戻る](#)